

# 日本外交文書

滿州事變

第一卷第一冊

外務省

## 序

近代日本の対外関係の展開を示す基本史料である「日本外交文書」は、外務省において昭和十一年に明治元年の第一巻を編さん以来、現在では大正十一年まで計一三五巻を出版するに至った。

さらに当史料館では、一般の要望に応えるため、大正期と並行して昭和期の外交文書を公刊すべく鋭意準備を進めてきたが、このたび「満州事変」に関する外交文書を発刊する運びとなった。満州事変は、日本外交史上のみならず、国際政治の上でも重大な転換期を画し、昭和期外交文書の嚆矢を飾るに相応しい歴史的意義をもつものと認められる。

激動の時代と称せられる昭和期日本の対外政策とこれをめぐる国際環境について、本書が正確な史実を提供し、内外の外交問題研究者の研究に資するとともに、今後のわが国外交政策の樹立にあたって何らかの寄与をなし得れば幸いである。

昭和五十二年三月

外務省外交史料館長

## 例 言

一、本書に収録された文書は、原則として外務省所蔵記録で、編さんにあたって原文の改変、削除、簡略化等を行われていない。ただ、明らかな誤字などは訂正し、漢字はなるべく当用漢字を使用した。

二、満州事変関係の外務省記録は焼失したものが多く、本省への来電、来信については相当程度「写」により復原し得たが、本省よりの往電、往信は復原がきわめて困難であった。重要な往電、往信で採録されていないものが多いのはこの理由による。

三、(イ)文書はそれぞれの事項のもとに暦日順に配列し、事項かぎりの文書番号を付した。

(ロ)発電日付不明のものは、着電の日付で採録し、表題においては、8月(21)日とカッコを付して區別した。

(ハ)表題発電者の上に※を付してあるのは、該電報が他地発信のものを転電した電報であることを表示する。

※在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛

(ニ)本文中右肩にある(1)(2)(3)等の記号は、同一番号の電報が何回かに分割の上発電されたことを示すものである。

………帰還後当地ノ状況ヲ見ルニ………

(ホ)表題の発・受信者は初出の場合にかぎり姓名を表示し、次回よりは姓のみにとどめた。

在ハルビン大橋(忠一)総領事より  
幣原(喜重郎)外務大臣宛  
四、各巻ごとに全採録文書の日付順索引を付した。満州事変 第一巻(昭和六年九月より昭和七年一月まで)は三冊よりなるので、日付順索引は第三冊に付記される。

## 満州事変 第一巻第一冊

### 目次

一 満州事変の勃発	一
二 満州事変勃発後の中国東北地方(満州)各地 および北平の状況	七三
1 東北地方の戦況ならびに居留民の動静	七三
2 東北地方各地の政情	二九九
3 北平における反応	四〇一
三 東北地方北部の形勢と日本軍のチチハル占領	四二八
四 天津事件	(以上第一冊)
1 天津事件と旧宣統帝溥儀の天津脱出	
2 第二次天津事件	
五 錦州周辺の情勢と日本軍の錦州占領	

- 六 国民政府との交渉
  - 七 中国およびその他各地における排日状況
  - 八 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況
- 付録 満州事変第一巻日付索引

## 事項一 満州事変の勃発

1 昭和6年9月19日 在奉天林(久治郎)総領事より  
幣原(喜重郎)外務大臣宛(電報)

柳条溝付近の満鉄線路爆破され日中両軍交戦

中との情報について

付記 九月一八・一九日奉天憲兵分隊長・関東憲兵隊  
長発電報  
柳条溝付近日中両軍交戦について

奉天 9月19日前発  
本省 9月19日前着

第六一六号(大至急)

十八日午後十時半満鉄本線柳条溝(当地北大営付近)付近  
ノ鉄道ヲ爆破セルモノアリ支那兵ノ処置ナルヤニテ我カ守  
備隊ノ出動ヲ見北大営付近ニ於テ日支交戦中ナリトノ警察  
報告ニ接ス不取敢(午後十一時)在支公使及各領事満州  
各領事ヘ転電セリ

(付記)

(一)

9月18日午後11時11分発

9月19日前1時20分着

日支兵衝突事件ニ関スル件

第一報(奉天憲兵分隊長発)

十八日午後十時半頃奉天東北方約六軒ニ在ル北大営北方  
満鉄線付近ニ於テ日本鉄道守備隊ト支那軍隊ト衝突シ日  
下交戦中

9月19日前1時55分発  
9月19日前4時30分着

(二)

第二報(関東憲兵隊長発)

一、十八日午後十時半頃支那軍隊ハ奉天北方柳樹堡付近満  
鉄線ヲ破壊セルニ基因シ日支軍隊目下交戦中

二、軍ハ直ニ出動準備中ナリ

三、当隊ハ各所ヨリ奉天ニ兵力ヲ集中ヲ命スルト共ニ本部  
ヲ軍司令部ト共ニ奉天ニ出動準備中(了)

(編注)

本付記電報は宛先不明であるが、関東軍司令官に宛  
てられ陸軍本省に転電されたものと見られる。奉天